

教授挨拶



平成の時代も幕を閉じつつあり、新たな年号の時代が始まろうとしています。私が、札幌医科大学呼吸器外科学教授に就任してから、早いもので5回目の春を迎えることになりました。この間多くの方々のご支援を頂き、教室も漸くその態をなしてきました。

医学の世界にも AI、再生医療、遺伝子解析における次世代シーケンス、ロボット支援手術など著しい進歩があります。

昨今の呼吸器外科領域においても、道移入されている分野もあり、未導入の分野においても今後なお一層導入速度、開発速度が高まるものと考えています。外科医もこれらの分野に真摯に向き合わなければなりません。

手術症例数

ロボット支援呼吸器外科手術が 2018 年 4 月から開始されました。2018 年 9 月にはロボット支援肺悪性腫瘍手術並びに縦隔腫瘍手術の保険認定施設となりました。2018 年には、24 例のロボット支援呼吸器外科手術が行われました。肺癌手術は、152 例行われ、ロボット手術を含めた鏡視下手術施行率は 93.4%でした。集学的治療の進歩により、転移性肺癌症例も増加し 60 例に達しております。

研究

臨床研究日本呼吸器外科学会学術委員会が主体となった「間質性肺炎合併肺癌症例に関する外科治療成績のに関する研究」において、教室の宮島講師が外科学会機関紙である **Surgery Today** の 2018 年最優秀論文賞 “What factors determine the survival of patients with an acute exacerbation of interstitial lung disease after lung cancer resection? : Surg Today. 2018 Apr;48(4):404-415” を獲得いたしました。基礎研究においては、附属フロンティア医学研究所 分子医学部門、細胞科学部門などと共同し、肺胞上皮と細気管支基底細胞の性質を併せ持つ細胞 **Human Lung cells (HuL cells)** の探索、肺癌ゲノミクス、プロテオミクスの研究を行っています。

教育

教室の方針として、医学部卒業と同時に呼吸器外科教室への入局を勧めて参りました。初期研修の間には、呼吸器外科領域以外の研修を行って頂き、後期研修では、集中して呼吸器外科の研修を行うことを目的としています。現在、6 名の後期研修医、3 名の初期研修医が研修に励んでします。

彼らが、近い将来に外科、呼吸器外科専門医として、その能力を発揮してくれるものと信じて疑いません。さらに、病める人を癒すため、自己の向上、呼吸器外科分野の発展を目指して新たな仲間が加わってくれることを願ってやみません(2019 年 3 月)。